

新庁舎の設計者を決定



▲設計者が提案した新庁舎のイメージ ※このとおりに設計するものではありません。

市は先月2日、市役所本庁舎を現在地で建て替える新庁舎建設事業の設計者を山下・NSP設計共同体(代表構成員・(株)山下設計 関西支社)に決定しました。

設計者の選定は、新庁舎建設基本計画に掲げる基本理念「瀬戸内をのぞむシンブルで機能的なまちづくりの拠点」と「シンブルで機能的な建築物」の2つの評価テーマを設定して実施。新庁舎建築設計者選定委員会(委員長 吉長 恭広 島国際大学教授・7人)に諮問し、7月10日から募集を開始しました。8月28日に公開ヒアリングを行い、最終審査を経て、設計者を決定しました。選ばれた提案は、西野川沿いにテラスや多目的ラウンジを配置し、来庁者

が良好な景観を見ながら手続きができるとともに、外から庁舎内の活動が見えやすい開かれた庁舎とするなど、敷地条件を生かした提案が高く評価されました。

来年11月までに設計を行い、平成29年3月までに工事施工者の決定、平成31年春頃の庁舎棟完成をめざして取り組みます。

庁舎建設担当室

☎0848・67・6022

中心市街地活性化へ 計画案への意見書を受理

市は先月1日、三原市中心市街地活性化協議会(会長:勝村善博 商工会議所 会頭)から、市が作成した中心市街地活性化基本計画案に対する意見書の提出を受けました。



▲意見書を手渡す中心市街地活性化協議会の勝村善博会長

意見書の中で協議会は、「市の中心市街地の活性化に大きく寄与する」と、計画の実効性を高く評価しました。

その一方で、「事業内容の見直し、新規事業の追加についてはその都度、協議、検討してほしい」とした上で、「新たな民間事業については、基本計画の変更なども柔軟に対応すべき」とし、改めて官民の連携の重要性を指摘しました。天満祥典市長は協議会の勝村会長から意見書を受け取り、「計画した事業ができる限り実現できるように取り組みたい」と答えました。

市は今後、計画に意見書の内容を反映させ、国に計画認定の申請を行います。

商工振興課

☎0848・67・6072

地域活性化へ3人目の地域おこし協力隊を配置

市は先月1日、鷺浦町を拠点に市内全域で活動する地域おこし協力隊員に東京都から転入した田中政敬さんを委嘱しました。田中さんは旅行社に勤務した経験を活かし、市内の観光施設と連携して誘客促進などの活動を行なう予定です。

田中さんはこれまで、ヨーロッパやアフリカ方面への日本人向けツアーの



▲天満市長に激励される地域おこし協力隊の田中政敬さん

現地手配などに従事。2年前からは離島を会場にしたイベントの企画、空き家を活用した外国人向けゲストハウスの運営など、都会と地方、日本と外国をつなぐことに重点を置いて活動してきました。

市は現在、地域おこし協力隊員を大和町と鷺浦町に1人ずつ配置しており、田中さんは3人目。今後、市中心部の住民と中山間地域の住民同士の交流促進、外国人の誘客など、地域の特性を生かした体験活動の提案、佐木島の宿泊研修施設であるサギセミナーセンターの活用促進方法などの検討に取り組みます。

委嘱式で天満祥典市長は、「経験を生かして、地域が元気になるように頑張ってください」と激励しました。

地域調整課

☎0848・67・6184